

森林計画学会・森林利用学会合同シンポジウム in 名古屋 2020

「林業のスマート化の加速に向けた挑戦」

日 時：2020年3月30日（月） 13:00 ～ 16:00

開催趣旨：

我が国の人工林は、戦後や高度経済成長期に植栽されたスギやヒノキなどの人工林が大きく育ち、木材として利用可能な時期を迎えてきている。一方で成熟した森林が十分に活用されず、伐採後の植栽も滞っている。このことが若齢級の森林面積の減少につながり、将来的には、その面積のまま齢級が上がっていくことになる。この状態が続くと持続的な森林管理を行うことができなくなる。

2019年4月に森林経営管理法が施行され、森林経営管理制度がスタートした。これは適切な経営管理が行われていない森林の経営管理を、意欲と能力のある林業経営者に集積・集約するとともに、それができない森林の経営管理を市町村が行うことで、森林の経営管理を確保し、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を目指すものである。

このような林業の成長産業化に向けては、制度を十分に機能させるため、情報通信技術（ICT）を十分に活用し、林業のスマート化を加速させることが急務である。森林計画学会と森林利用学会は、2030年に向けた技術体系の確立を目指した合同でシンポジウム「林業のスマート化の加速に向けた挑戦」を開催する。

プログラム（案）： 司会 板谷明美（三重大学）

13:00 ～ 13:05 シンポジウム趣旨説明 板谷明美

13:05 ～ 13:25 「林業のスマート化に求められる森林計画とは」
平田泰雅（（国研）森林総合研究所）

13:25 ～ 13:45 「スマート化技術による素材生産の自動化」
有水賢吾（（国研）森林総合研究所）

13:45 ～ 14:05 「林業のスマート化に向けたセンシング技術」
加治佐剛（鹿児島大学）

14:05 ～ 14:25 「林業のスマート化によって作業はどう変わるか」
猪俣雄太（（国研）森林総合研究所）
（15分間の休憩）

14:40 ～ 15:50 パネルディスカッション「スマート林業の定義と今後の展開」
司会：平田泰雅・長谷川尚史（京都大学）
パネリスト：加治佐剛・山本一清（名古屋大学）・有水賢吾・猪俣雄太

15:50 ～ 15:55 森林計画学会会長によるコメント
白石則彦・東京大学

15:55 ～ 16:00 森林利用学会会長によるコメント
山田容三（愛媛大学）
閉会

なお、前日の3月29日（日）に名古屋大学（仮）において、意見交換を兼ねた合同懇親会を開催する予定である。